

旧田代小学校利活用基本計画



平成 29 年 2 月

寒河江市

目 次

1	計画策定の趣旨	1
2	田代地区でのこれまでの経過	2
3	田代地区の状況	3
3-1	田代地区の現状と課題	3
3-2	田代地区の強みと将来性	3
4	寒河江市における田代地区の位置付け	5
5	旧田代小学校利活用計画	6
6	施設の運営方法	6
7	リノベーションの概要	7
8	リノベーションのコスト	8
9	事業のスケジュール	8

1 計画策定の趣旨

田代地区は、平成 21 年度より地域づくり活動を本格的に実施しており、地域自らが策定した地域づくり計画に基づき、平成 24 年度まで地域外との交流事業を中心に様々な事業に取り組み、交流人口の拡大等で成果を残しました。

その後、寒河江市立田代小学校は平成 25 年 3 月に廃校となり寒河江市立白岩小学校に統合されました。これを受けて、田代地区では地域づくりと一体となった旧校舎の利活用について、これまで検討し、一部の事業について試行してきました。

現在、田代地区は、平成 26 年度末に策定した第 2 期田代地区地域づくり計画に基づき、「10 年後も 20 年後も田代のままであり続けよう」という明確な目標を掲げ、旧小学校を利活用した新たな地域づくり活動に向けての準備を進めています。

寒河江市では、田代地区における新たな地域づくりを支援するとともに、旧田代小学校を利活用した新たな取り組みを進めるため、本計画を策定し旧田代小学校の利活用を促進することとします。



2 田代地区でのこれまでの経過

廃校までの動き	平成 21 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田代地区地域づくり推進協議会設立 ・ 葉山の里田代地区地域づくり計画策定（第 1 期地域づくり計画）
	平成 22 年度～平成 24 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくり推進事業（3 年間） ⇒第 1～3 回収穫感謝祭開催及び特産品の開発 等
	平成 25 年 3 月寒河江市立田代小学校閉校
地域づくり計画策定への動き	平成 25 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎集落等自立再生対策事業 ⇒廃校レストラン（たしろ亭）開設
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落支援員配置
	平成 26 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域いきいき元気づくり事業 ⇒たしろ亭（計 5 回）開催
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくり勉強会及び地域づくりワークショップ開催 ・ 葉山の里田代地区地域づくり計画策定（第 2 期地域づくり計画）
宿泊施設の検討	平成 27 年度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域おこし協力隊配置 ⇒宿泊施設に向けた計画づくり
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域いきいき元気づくり事業 ⇒たしろ亭（計 17 回）開催
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動スタートアップ支援事業 ⇒廃校舎を活用した宿泊施設の先進地視察（新潟県）

3 田代地区の状況

3-1 田代地区の現状と課題

田代地区では人口減少と高齢化が加速しています。平成16年では住民総数339人でしたが、平成28年10月1日時点では住民総数223人（世帯数80戸）となり、高齢化率は49.8%となっています。これは、若年層を中心に地区外に転出していることが主な原因と考えられ、人口流出により地区内には空き家の数も増大しています。これらが更に進展すれば、集落機能の維持が困難になることが予想されます。

※年少人口（0～14歳）：13人、生産年齢人口（15～64歳）：99人、老年人口（65歳以上）：111人

また、農林従事者の高齢化が進むとともに、後継者不足が深刻になっています。これらの対策を早急に講じなければ、地区内の遊休農地や耕作放棄地が増大し、葉山ブランドの農産物の生産が困難になることが予想されます。

そして、福祉環境においては一人暮らし老人や高齢者のみの世帯数が増加しているため、豪雪地域である地区内における高齢者世帯の生活不安へとつながっています。このため、住民一人ひとりが地域に誇りと愛着を持てるよう、若者と高齢者の交流を深め、地域全体が互いに助け合って安心して暮らせるための地域づくり活動への期待が高まっています。

3-2 田代地区の強みと将来性

田代地区は、出羽三山の山岳信仰で栄えた葉山の中腹に位置しており、様々な特徴や地域資源を有しており、里山・棚田の風景等の美しい自然が色濃く残っており、素晴らしい農山村風景が広がっています。

寒河江インターチェンジから国道112号線を経由し県道でアクセスできるなど比較的的道路事情に恵まれており、仙台圏から山形自動車道を経由すれば約90分という立地も大きな魅力となっています。

そして、山菜やキノコ等の豊富な山の幸、きれいな湧水で育てた米、冷涼な気候で育つ葉山高原野菜、平場に比べて収穫期が遅いさくらんぼ、など食の魅力がたくさんあります。

さらに、葉山登山道が地域のすぐそばにあり葉山登山の拠点となるロケーションであること、山岳道路を活用したヒルクライムなどの自転車コースとしての魅力を持った地域であること、さくらんぼの季節に舞うホタルや地域で植栽した蓮池など、可能性を秘めた観光資源が多く存在します。

一方、田代地区は都市と農山村交流に関する事業として、早稲田大学との交流を平成11年より継続してきた実績があり、地区外の若者を積極的に受け入れ、地

域活性化に繋げている豊富な経験を有しています。

これら豊かな自然環境や観光資源、これまでの経験を活かし、交流人口の拡大や地域経済の循環を図る取組みを進めていくことで、地域力を高め、人口減少に歯止めをかけることができると考えられます。

4 寒河江市における田代地区の位置付け

田代地区は、地形上いずれの集落とも隣接していない状況にあり、生活需要は市中心部に依存しているなど、「辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律」における辺地に該当しています。

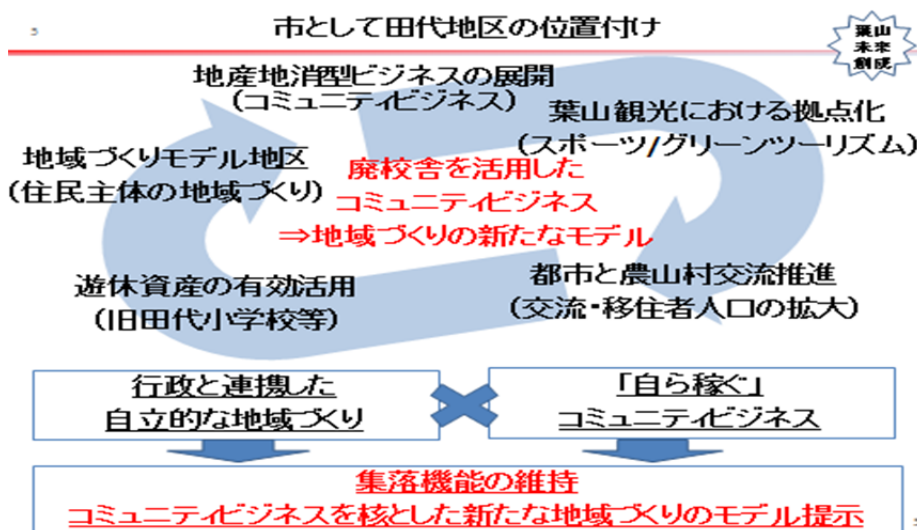
農業においては、高齢化と後継者不足等から遊休農地が増えてきているため、その解消と活用策が課題となっています。葉山ブランドの野菜や標高差を利用した出荷時期が異なるさくらんぼ、キノコや山菜をはじめとした特産物など、中山間地の特徴ある生産物を活かし生産体制を維持する必要があります。

観光においては、県道の最奥に位置することから通りがかりの観光客は見込めないため、里山・棚田の風景等の美しい自然や文化、伝統、山の幸、湧水など貴重な地域資源を活かし、葉山全体の観光拠点とすることが期待されています。

福祉では、人口減少や高齢化の進展から集落機能を維持することが難しくなっているため、住民一人ひとりが地域に誇りと愛着を持てるよう若者と高齢者の交流を深め、地域全体が互いに助け合って安心して暮らせるための取り組みが必要となっています。

平成 25 年 3 月に田代小学校が廃校となった後、田代地区では地域づくり活動を活発化し、同時に地域の将来像について話し合いを進めてきました。そして、旧田代小学校を活用した地域づくりについて計画を策定し、検討や試行を行ってきました。その結果、旧田代小学校を利活用して宿泊・飲食事業等の新たなコミュニティビジネスを展開することにより田代地区の活性化を図ることについて地域内で合意形成されたところです。

寒河江市では、地産地消型飲食事業「たしろ亭」や新たな宿泊事業などのコミュニティビジネスを創出することで、スポーツやグリーンツーリズムなどのコンテンツと連動した葉山観光における拠点化を旧田代小学校をリノベーションすることで進めることができると考えており、これにより行政に依存しない自立的な地域づくりと「自ら稼ぐ」コミュニティビジネスを推進します。そして、田代地区の集落機能の維持を図るとともに、コミュニティビジネスを核とした新たな地域づくりのモデルを提示することとします。



5 旧田代小学校利活用計画

寒河江市はコミュニティビジネスを核とした新たな地域づくりのモデルを提示するべく、以下の目的のため旧田代小学校を改装（リノベーション）し、施設の利活用を推進します。

- ① 廃校舎を活用したコミュニティビジネスの展開
- ② 葉山観光受入体制の強化
- ③ 地域雇用の改善に向けた環境の醸成
- ④ 都市と農山村交流（葉山村塾等）の拠点整備
- ⑤ 地域づくり活動の拠点整備



6 施設の運営方法

地域づくりの拠点となる本施設の管理運営は、指定管理者制度により NPO など法人格を持つ地域主体の団体が行うことを想定しています。

※田代地区における様々な地域課題に取り組むために、住民が主体となって NPO 法人「葉山の里たしろ」が 2016 年に設立。小学校を活用した宿泊・飲食事業等の交流促進を柱として田代地区や葉山全体の振興に関する事業に取り組む予定。田代地区住民の地域会員をはじめとして、交流を続ける早稲田大学 OB や田代地区を支援する地区外の会員などにより構成。

～田代地区が策定した事業計画の抜粋～

●宿泊事業

廃校舎を活用した宿泊施設は県内に少なく、自然体験プログラムや地産地消型の食事提供と組み合わせることで他施設との差別化が図られます。収容人数は、教育旅行をはじめ合宿で利用できる規模である 60 人程度とし、主な対象者は以下のとおりとします。

◎主な対象者

- 県内と仙台圏の教育旅行（小・中学校）
- 村山地域（山形圏）と仙台圏の家族層
- 村山地域のスポーツ少年団、子供会、吹奏楽や合唱、バンドなどの音楽サークル
- 県内外の大学
- 仙台圏のスポーツサークル



- 仙台圏から山菜採り者・登山者
- 安価な宿を求めるバックパッカー
- ◎料金収入
- 宿泊料、食事料金、体験料、体育館・グラウンド等使用料等

●飲食事業

これまで「たしろ亭」を運営し、本膳と二の膳つきの御膳料理を中心としたサービスで集客した実績があり、地産地消型の郷土食は好評を得てきました。今後は御膳料理を嗜好する高齢者に加えて様々な世代をターゲットとしていくメニュー開発を進めることと、合宿者向けの安価なメニュー開発を進めることで、宿泊事業との相乗効果が図られます。

◎主な対象者

- 仙台圏及び村山地域のシニア層
- 農業に関心のある村山地域の30～40代の女性
- 施設宿泊者

◎商品

- 田代に昔から伝わる郷土食
- 合宿者向けの安価なメニュー
- 宿泊料金とセットになった郷土食を中心としたメニュー
- アルコール飲料（宴会向け）

7 リノベーションの概要

- 対象物件 旧田代小学校
住所：寒河江市大字田代 370 番地 1
校舎：鉄筋コンクリート造 3階建 床面積 1147.44 m²
渡り廊下：鉄骨造 1階建 床面積 17.00 m²
屋内運動場：鉄鋼増 1階建 床面積 528.00 m²

○改装概要

校舎棟1階は、地産地消型レストラン「たしろ亭」の運営が円滑に実施できるよう改装します。様々なお客様をお迎えできるようにスロープや多目的便所を設置し、トイレ洋式化やレストランスペースの拡張、事務室の設置等の工事を実施します。

校舎棟2階は、各種団体が合宿できる宿泊室と観光客が宿泊できる和室等（合計宿泊定員60人程度）に改装します。教室を半分に間仕切りし、2段ベッド8台を設置する部屋と畳敷きの和室を設置します。多目的教室は大広間の和室に

改装します。

校舎棟 3 階は、教室と家庭科室をそのまま活かしてレンタルスペースと自炊室に改装します。

屋内運動場棟は、ステージ側に壁面ボルダリングを新設するとともに、用具室脇に浴室棟を増築します。浴室棟につながる通路、浴室、脱衣室、便所等を増築部分に整備します。

各階平面図等は別紙のとおり。

8 リノベーションのコスト

整備費（概算）

約 1 億円

財源

地方創生拠点整備交付金(1/2)又は辺地債を活用を想定

※地方創生拠点整備交付金を活用した場合は補正予算債(1/2)の活用も想定

9 事業のスケジュール（予定）

平成 29 年	冬	旧田代小学校利活用基本計画策定
	春	実施設計着手
		改装工事発注
秋	改装工事完成・開設準備	
平成 30 年	冬	プレオープン
	春	グランドオープン

